

THE HOLY GRAIL OF PRECISION

精度への 飽くなき口マン

機械式時計をファッショナルに考えれば、
「正確さ」は重要ではないかも知れない。
しかし今もなお、誠実に精度に向き合い、
いにしえの機構を再現している
孤高の時計ブランドがある。

TEMPORAL



Chronomètre FB 2RE

クロノメーター FB 2RE

フランスの偉大な時計師フェルディナント・ベルトゥーが開発した高精度マリンクロノメーターの技術を継承した時計。ローマ数字のインデックスは当時の時計からインスピレーションを受けている。すらりと長い秒針は、精度に影響を与えないために、軽量なチタンで作られている。世界限定10本。手巻き、18KエシカルRGケース、44mm。¥26,740,000（予価）Chronométrie Ferdinand Berthoud



左上から時計回りに：光沢感の美しいダイヤルは、職人が手仕上げするクラシック・エナメル製／シースルーバックからは鎖引きのフュゼ・チェーン伝達機構などが見える／発想のもととなったフェルディナント・ベルトゥー製作の「マリンクロック No.6」／脱進機のところに組み込まれた「ルモントワール・デガリテ」は、時計を正確に動かすカギを握る機構である／ケースサイドに窓があり、ここからも機構が見える。これもマリンクロックに備わっていた構造を再現している。

かつてない技術的偉業を讃えた、かつてない時計

時計の本懐とは、“正確に時を告げる”ことである。そのため多くの時計師が、いかなる条件でも正確に動く時計を作るためにさまざまな素材や機構を開発してきた。そして20世紀中頃に圧倒的な高精度を誇るクオーツムーブメントが発明され、さらには電波時計やGPS電波時計によって誤差のない時計が作られるようになった。ハイテク技術による高精度化が実現した以上、もはや機械式時計に高い精度を求める必要はないかもしれない。

そもそも現代の高級時計は、ステイタスアイテムであり、紳士が楽しむアクセサリーでもある。最も重視されるのは“ルックス”で、見えない機械の良し悪しではない。しかし今でも機械式時計は、精度追求をやめることはない。数百というパーツが寸分の誤差もなく動くということは、高品質の証でもある。そして時という概念を高度な機械で表現してきた時計文化をないがしろにはできないという気持ちがそこには残っているのだろう。

「クロノメトリー・フェルディナント・ベルトゥー」も、時計文化の継承に力を入れている。この時計ブランドは、ショパールの共同社長であるカール・フリードリッヒ・ショイフレ氏が立ち上げたもので、18世紀にフランスで活躍した偉大な時計師フェルディナント・ベルトゥーの功績を今に伝えるために、彼が製作した時計機構を踏襲しながら、クラシカルで美しい時計を作っている。

フェルディナント・ベルトゥーの功績として最も有名なのは、安全に航海するために必須のマリンクロック（海洋高精度時計）の開発だ。開発競争こそイギリスに先を越されたものの、フェルディナント・ベルトゥーが製作したマリンクロノメーターの精度も極めて優れており、その功績から“フランス国王と海軍の時計・機械職人”という称号を与えられた。

ここに紹介している時計「クロノメーター FB 2RE」はフェルディナント・ベルトゥーが製作した「マリンクロック No.6」か

ら着想を得ている。ダイヤル周りはシンプルな3針時計だが、そのメカニズムは、高精度のために徹底的に考え抜かれている。しかもトゥールビヨンなどの派手な機構ではなく、ゼンマイトルクの制御によって精度を高めるという古式ゆかしい方法に力を注いでいるのが特徴。極小チェーンを使って歯車を回転させるトルクを安定させる「フュゼ・チェーン伝達機構」や、精度を司るテンプへの力の伝達を安定させる「ルモントワール・デガリテ」といった伝統的な時計技術を蘇らせ、この時計に採用しているのだ。これらの機構は表側からは見えない。シースルーバックとケースサイドの小窓から子細に鑑賞できるのは、この時計のオーナーだけの特権なのである。

何かと効率化が好まれる時代の中で、“精度”というロマンのために手間をかけて時計を作るというのは、非常に贅沢なことだ。この時計が表現しているのは時間ではなく、時計への情熱なのである。 R